

新しいつながり方

昨日の夕方、職員室には多くの担任の声が、ひときわ大きく飛び交っていました。その中を学年主任がウロウロキョロキョロ。いつものとは違った雰囲気でした。なぜだかわかりますか。夕方五時から、持ち帰ったタブレットで、家庭と学校がつながるかどうかの接続テストが行われました。三十分間のテストでしたが、いつも静かな職員室が活気に包まれたように感じました。

「あっ、〇〇君、こんばんは！見える？」

「△△さん、名前を入れてね！」

「□□君、お姉ちゃんの姿も見えるね！こんばんは！」

このような調子で、接続が成功すると、担任の笑顔と歓声が生まれました。下校前まで会っていた生徒たちがタブレットの中にいることが妙に新鮮でした。

担任がタブレットの中の生徒たちと楽しく声を交わしている一方で、自分も参加したいけど担任を押しつけてまで出しゃばれない学年主任たちが担任の後ろからタブレットをのぞいたり、特別出演して手を振ったりしていました。この日は、主任が一抹の寂しさを味わったようでした。

コロナ禍で私たち教師のほとんどの出張もリモートで行われます。最初の内はもの珍しく、こんなやり方で出張が成り立つのかと不思議に思っていました。そのうちに、出かける煩わしさが解消されたりリモート出張に便利さを感じるようになりました。今ではタブレットから主催者の姿や声が伝わってきても、何も感じなくなりました。

しかし、相手が生徒となると話は別です。いつも出会っている彼らですが、家に帰ってからもつながることができるとわかると、一味違う安心感や楽しさが生まれます。それを最も強く感じる事ができるのが担任ですね。タブレットの中の生徒がジャージ以外の服を着ていたり、部屋の様子が少し映し出されたりすると、その生徒の新しい一面が知れたような感覚になりワクワクしてきます。

昨日はたった三十分の接続テストでしたが、職員室のだれもがいつになく興奮していたようです。離れていてもつながることができるといえるのはうれしいものですね。

一年前は離れたてしまったらつながれない状況でした。一昨年度の終わりから数えると約三カ月間の離れ離れが続きました。つながることができる唯一の手段が電話でしたね。あの時からすれば大きな変化ですよね。

新型コロナウイルスを歓迎しているわけではありませんが、コロナがタブレットを普及させ、家庭にいる生徒と学校の職員を結び付けてくれました。新しいつながり方が生まれたことだけは大きいに歓迎したいですね。

(七月十六日 記)